

〈資料 12〉

「小学校教科書に登場する古典教材一覧表」 (平成 22 年 3 月検定済)

(※太字は漢文教材)

教科書会社	※第 3・第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
A 社	<p>知ると楽しい「故事成語」〔言語文化〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛇足 ・五十歩百歩 (意味・言葉の由来・使い方) <p>百人一首 俳句・短歌 いろは歌</p>	<p>声に出して読もう〔言語文化〕</p> <p>『論語』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子曰わく、「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ。」と。 ・子曰わく、「過ちて改めざる。是を過ちと謂ふ。」と。 ・子曰わく、「学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。 <p>(書き下し文、口語訳)</p> <p>枕草子・平家物語・竹取物語</p>	<p>季節の言葉〔コラム〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「春暁」孟浩然 ・「春夜」蘇軾 <p>春宵一刻値千金のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「静夜思」李白 <p>(書き下し文、口語訳、解説)</p> <p>声に出して読もう〔言語文化〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「天地の文」福沢諭吉¹ <p>(解説・語注)</p> <p>短歌創作</p> <p>万葉集・古今集・新古今和歌集・近現代の短歌と俳句</p> <p>狂言「柿山伏」、源氏物語紹介</p>
B 社	<p>日本の文化に親しむ〔言語文化〕</p> <p>故事成語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十歩百歩 ・漁夫の利 (故事紹介、例文) <p>調べ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛍雪の功 ・杞憂・蛇足 ・虎の威を借る狐 ・矛盾 <p>俳句 短歌創作 落語「寿限無」 いろはうた 百人一首</p>	<p>日本語の響きを味わう〔言語文化〕</p> <p>漢文に親しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「春暁」 (白文、訓読解説、書き下し文、口語訳) ・「静夜思」 (書き下し文、口語訳) <p>『論語』・『大学』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・故を温ねて新しきを知る。 ・心焉に在らざれば視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえども其の味を知らず。(書き下し文、口語訳) <p>漢文を読もう〔言語文化〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「春夜」蘇軾 ・「江南の春」杜牧 ・「山亭の夏日」高駢 <p>(書き下し文、口語訳)</p> <p>『論語』</p>	<p>「小諸なる古城のほitori」 島崎藤村</p> <p>枕草子・徒然草・おくの細道</p> <p>「アイヌ神謡集」知里幸恵訳</p> <p>「おもろそうし」外間守善訳</p> <p>俳句・短歌創作</p> <p>「坊っちゃん」、「杜子春」冒頭</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・学びて時に之を習う。亦た説ばしからずや。朋の遠方より来たるあり。亦た楽しからずや。 ・吾十有五にして学に志す。……七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず。 <p>竹取物語・平家物語 更級日記、源氏物語、伊曾保物語紹介</p>	
C社	<p>日本の言の葉〔言語文化〕</p> <p>「ことわざブック」を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良薬は口に苦し <p>故事成語について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十歩百歩 (故事紹介四コマ漫画、意味) <p>調べ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁夫の利・蛇足 <p>落語「寿限無」 狂言「清水」</p>	<p>短歌・俳句</p> <p>「枕草子」、「徒然草」、「平家物語」</p> <p>「竹取物語」</p> <p>百人一首</p> <p>「山のあなた」上田敏訳</p>	<p>日本語の言の葉〔言語文化〕</p> <p>「漢文を読んでみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百聞は一見にしかず (白文、訓読解説、書き下し文、意味) ・一を聞いて以つて十を知る。 ・子曰はく、「故きを温めて新しきを知らば、以つて師となるべし。」と。 ・「十七条の憲法」聖徳太子一に曰はく、和を以つて貴しとし、さかふることを無きをむねとせよ。(書き下し文、白文、) 口語訳
D社	<p>☆発展学習</p> <p>「星と取り」²</p> <p>想ぞうをふくらませよう〔書く〕</p> <p>故事成語の物語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁夫の利 <p>故事紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矛盾 ・五十歩百歩 <p>・推敲その他任意の故事成語を一つ選び、故事と意味調べ、登場人物、場面</p>	<p>漢字辞典で受け継ぐ言葉の文化〔言語文化〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登竜門・他山の石 (漢和辞典の調べ方解説) <p>調べ学習 (漢和辞典)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水魚の交わり ・太公望・助長 <p>「枕草子」、「徒然草」、「おくの細道」</p>	<p>声に出して読もう〔言語文化〕</p> <p>『論語』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びて時に… ・吾日に三たび吾が身を省みる ・故きを温めて新しきを知る。以て師と為るべし。 ・仁者は必ず勇有り。勇者は必ずしも仁有らず。 ・己の欲せざる所は人に施すこと勿れ。(書き下し文、

〈資料 12〉

	を想像して物語を書き、読み合う。 短歌 いろは歌 カルタ創作		口語訳 「徒然草」、「枕草子」 随筆創作 短歌の創作・発表
E社	言葉のいずみ〔コラム〕 調べ学習 ・五十歩百歩・蛇足・矛盾・蛍雪の功・一刻千金・温故知新	「宇治拾遺物語」小野篁の 広才 落語「まんじゅうこわい」	言葉のリズムやひびきを楽しむ しもう〔言語文化〕 漢詩を味わおう ・「胡隠君を尋ぬ」高啓 ³ (書き下し文、白文、解釈、解説) 短歌・俳句 「やしの実」 島崎藤村

- 1 天地日月。東西南北。きたを背に南に向かひて右と左に指させば、ひだりは東、みぎはにし。日輪、朝は東より次第にのぼり、暮れはまたにしに没して、夜くらし。一昼一夜変わりなく、堺つれば一か月、大と小とにかかはらず、あらまし分けし四週日、一週日の名目は日月火水木金土、一七日を一新し、一年五十二週日、第一月の一日は年たち回る時なれど、春の初めは尚遅く初めて来る第三月、春夏秋冬三月づつ合わせて三百六十日、一年一年又一年、百年三万六千日、人生わづか五十年、稚き時に怠らば老いて悔ゆるも甲斐なかるべし。
- 2 『醒睡笑』巻一「鈍副子」安楽庵策伝
こぞうあり。さよふけて長ざおを持ち、庭をあなたこなたとふりまわる。ぼうずこれを見つけ、「それは何事をするぞ。」と問う。「空の星がほしさに、うち落とさんとすれども落ちぬ。」と。
「さてさて、どんなるやつや。それほど策がのうてなるものか。そこからは、さおが届くまい、屋根へ上がれ。」と言われた。
- 3 水を渡り復た水を渡り 花を看還た花を看る
春風江上の路 覚えぬ君が家に到る